

令和3年6月（2021年）No.666

待望のワクチン接種にありつけて

会長 合原一夫

コロナ禍は山を描きながらも留まることも無く続き、今も3回目の緊急事態宣言が続いています。そして6月20日迄延長との事。この影響で5月例会も休会を余儀なくされました。インド株など変異ウイルスの感染力が従来型に比べて1.5倍ほど強いようです。

結局のところ、大勢の方がワクチンを打ち免疫力を高めて流行を抑えるほかに決定打がないようです。人の流れもそれほど減っていないというし、ミナミの繁華街では夜もまだ賑わっているという報道があります。

私の掛かり付け医が近くにあり、早くから口頭で主治医にワクチンが来たら早めに頼みますよ、と言っていたので、特にワクチン注射を申し込まなくても、ちゃんと予約手続きが取れていて、5月17日夕方、電話があり、21日12時50分に来院するよう連絡がありました。

当日、早めに医院に行き、てきぱきと手順を踏んで注射にありつけホッと一息。チクリとしただけで後遺症もなく、あと6月11日3週間後2回目の接種を待つだけです。

早く会員の皆さんも接種を終えてほしいものです。安心して例会も二次会の会話も楽しめるようになりたいですね。普通の生活、活動を取り戻すにはワクチン接種が広く行き渡ることです。若い人たちは後回しで当分先になるでしょうから、高齢者だけがワクチン接種を終えても、しばらくはマスクや手指の消毒3密対策等は要請されるでしょうが、明るさが見えてきたことは歓迎です。

■ 5月例会中止に伴い、今月も誌上例会とYouTube上映のレポートです



6月例会のお知らせ

■ 第4土曜日26日18時より難波市民学習センター第4研修室にて開催

久しぶりの出会い、大型スクリーンで大いに楽しみましょう。

5月誌上例会レポート

このところ異変ウイルスの蔓延により三度目の緊急事態宣言が5月末日までの期間発令され、難波市民学習センターも閉鎖、従って、わが大阪ムービーサークルが楽しみにしていた第2例会及び通常例会とも中止の止む無き事態となりました。今、大阪で特に流行っている変異ウイルス、感染力が1.5倍位強いと云われているので油断できません。

そこで昨年5月に行われた誌上例会を開催することにしました。作品はYouTubeでご覧頂けます。

■ 提供作品紹介

<書記は高瀬氏>

1、蹴上インクラインの春 BD 高瀬辰雄 8分00秒

<作者コメント> 京都・蹴上のインクライン(傾斜鉄道)は明治から大正、昭和初期にかけて琵琶湖疎水の船運を支え、京都の経済発展に大きく貢献しました。廃線跡には線路が残され、往時を偲ぶ台車や船なども置かれています。その両脇には桜の樹が植えられ、インスタ映えすると、若者に人気のスポットとなっています。

コロナ禍で人の少ない時間にと早朝、撮影に出かけましたが、7時過ぎには結構花見の人でいっぱいでした。

<会長講評> 京都蹴上のインクラインの話掘り下げていくと琵琶湖疎水建設にまつわる壮大なドラマになりますが、この作品は、今時の若者たちがコロナ禍の中にあっても、花見時のインクラインが人気のスポットになっている、との視点で描かれています。

着物姿の若い女性のグループや、インスタ映えするとのことで写真を撮っている人たちが楽しげで、マスクなしの人も多く、コロナ禍で「ステイホーム」との呼びかけもどこへやら。ラストの花も終わった跡の誰も居ないインクラインの静かなたたずまいが印象的でした。よくできた作品です。

2、いちょうの巨木は黄金色へ BD 紙本 勝 11分35秒

<作者コメント> 巨木紀行の大阪府内最後の作品です。いちょうの黄葉の丁度の時期に行けず、黄葉の始まりや、終わりの頃 だったりになりました。たくさんの気根※が垂れる光明寺境内の古木もありました。イチョウの巨木四題のうちです。

※植物の地表に出ている莖あるいは幹から出て、空気中に現れている根。

<会長講評> 紙本さんの巨木探訪シリーズも7回目で大阪編は5作目だそうです。大阪にも何百年も生き延びている巨木が多く残っていることに感動を覚えます。守口の難泉寺では、寺の奥さんとの会話の場面が生きていました。気が付いた点は、タイトルのところで、大阪府編とすべきところが、「偏」となっていました。「偏」は「片寄り」などで使う言葉です。タイトル文字は特に間違えないようにしましょう。

3、2021年春 狭山池を訪れて BD 中川良三 8分12秒

<作者コメント> 緊急事態宣言が一時解除され、桜の花の開化情報が新聞紙上で掲載されている、桜だけでは作品作りはむりと思っていたが、旬のニュース「New門」という欄に、世界かんがい施設遺産の記事「漕漑大国日本」に日本最古のダム狭山池の記事が出ていた。



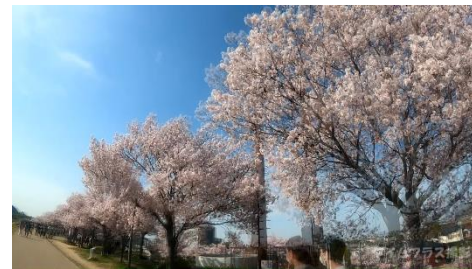
桜見物をかねて狭山池博物館に足を運び作品の題材にならないかと思いつけた。

今回は Gopro9 というアクションカメラのテストもかねている。動きながらの撮影はうまくできたのか？

<会長講評> 狭山池探訪へ行かれる迄の動機付けの点については良く理解できます。



ただトップの読売新聞の記事の字が小さくて読めません。記事全体のすぐ次に見出しの少し大きい字をアップで入れるとよいでしょう。降水量の変動のグラフ等少しだけでは理解できないので「降水量にバラツキが大きいので、どうしても水をためておく施設が必要だった」とナレーションで補足説明の後、だから狭山池も造られた、と話を進めていけば納得しやすいと思います。福岡県朝倉市の水車群、福島県「安積疏水(あさかそすい)」等の話は省いた方が狭山池の印象を薄めないでよいのではないかと思います。あまりにも壮大な歴史物語にすると主題がぼけてきます。ちなみにラストの Gopro9 というアクションカメラで走りながらのちょっと不思議な？変わった映像が出てきますが、作品次第では効果的なカットになるかも知れません。



4、春を告げる 梅の花 BD

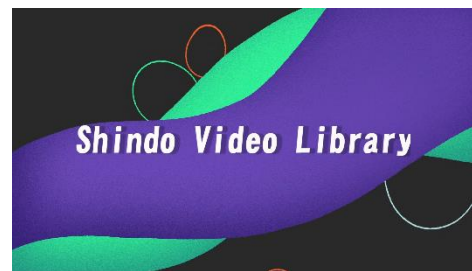
進藤信男 8分10秒

<作者コメント> 中山寺梅園は、斜面に植えられているためか、こんもりと盛り上がって見える。



木の下から見るのが多い梅の木も、盛り上がるように見えると一味違った感じを与えてくれるのです。

ここでは、梅林と表示されているが「中山寺梅園」と呼ぶことにした。普段は、この時期には茶席が設けられ、琴などの演奏が披露され大勢の来園者がある。



今年は、ここにもコロナ禍が押し寄せている。しかし、花はいつも通り元気に咲き訪れる人を楽しませてくれます。黄砂の飛来が多かったこの時期。晴れた日を狙ってみた。

<会長講評> 作者の「上映提出票」には「春を呼ぶ」となっているが、上映してみると「春を告げる」となっているので、ここでは「告げる」と訂正しておきます。作者のクレジットタイトルが変わりましたね。新鮮な感じがします。最もクレジットタイトルは、自分の作品であるという標札のようなものなので、しょっちゅう変えるものではありませんが、よいクレジットだけに大切に未永く使ってください。

中山梅園は起伏が多く、それだけに変化の富んだカットが撮れています。かつて故吉岡貞夫作品に、ここで茶席を設けて演奏会もやっていた作品の事を思い出しました。

ラストの鐘の音は効果的ですので、鐘の跡の説明と前後を入れ替えて、鐘^のふかんのロングでこの間にはナレーションを入れず鐘の音だけで遠くに響きわたりつつエンドマークへ持っていったら如何でしょう。

5、春・平安神宮 BD

江村一郎 8分00秒

<作者コメント> 今年3月に紅しだれ桜を撮るべく平安神宮に行ってきました。平安神宮は千年の都と呼ばれる京都の中では明治28年に創建された比較的新しい神社です。朱塗りの社殿や3万㎡におよぶ回遊式庭園。今回その池で愛らしい子ガモに遭遇した。



<会長講評> いつもの江村さんの編集のやり方とは少し違った印象を受ける作品です。コロナ禍での平安神宮中でも南神苑の描写は良く撮られています。コガモのカットが長いのでその一部を、コガモを見ているカット（1カットは有りましたが）に入れ替えたらどうか等考えたりしました。



花の季節にはもっと観光客が多い筈だがコロナ禍で減ったとはいえ、結構人も多かったようです。マスク姿が時代を表していましたが、マスクなしの人も結構いましたね。ラストの作品も尻切れトンボで何か物足りないので、字幕でよいからさいごの締めくくりの言葉、印象とか感じ入った事とか、何か自分の思いで終わってほしかったと思います。

これからの3作品は 第2例会用に提供されたものです

1、令和よさこい番外編 BD 江村一郎 7分50秒

<作者コメント> 2019年8月高知のよさこい祭りです。自由な祭りにふさわしくチームの衣装も様々これが「よさこい」？大学園祭？仮装行列？かと思われるが鳴子を持っているので「よさこい」と納得させる。この自由さが若い人に支持されるゆえんなのかも知れません。



<会長講評> コロナ禍直前の2019年8月撮影との事。やはり祭りの楽しさはマスクなどしないで思い切って笑顔を振りまき、汗をかいて無心になって動き回る事。コロナはこれらの楽しみをすっかり奪ってしまいました。



この作品、字幕もナレーションも無い、ほとんど現録だけの音とカットのつながりのうまい江村さんならではの映像で構成されています。「番外編」だからでしょうか、商店街や大通りの華やかな踊りの行列は無く裏通りなど小規模なグループの踊りをメインに構成されています。

江村作品らしい、よさこい祭りの作品はたくさん拝見してきましたが、今回の作品は少し物足りないような気がします。

ラストの扱い方が問題かもしれません。踊り終わって一服しているグループ、ごみを片付ける人たち、見終わって帰っていく家族づれ等に、何か最後の締めらしいカットを持ってきたら、見終わってより印象に残る作品になるかもと、考えますが如何でしょう。

2、令和二年大晦日の金閣寺 BD 高瀬辰雄 2分20秒

<作者コメント> 令和2年の大晦日は早朝に雪が降り、金閣寺の開門(9時)頃、新しく葺き替えられた屋根に雪が積もっていました。三脚が使用禁止のため、カメラを固定するのに苦労しました。テスト的に4Kで撮影、編集しYouTubeには4Kの画質でアップしています。なお4Kで見させていただく場合、画面右下の設定(歯車のようなマーク・X 頁の挿入図参照)をクリックし自動画質から最上位の画質に変更してください。

<会長講評> 4Kカメラで撮影、編集されたもののようですが、さすがきれいですね。雪景色の中の金閣寺も神々しいばかりに輝いていました。京都の人でないところしたシャッターチャンスには恵まれな

【挿入図】
You tube 画面右下の歯車マーク・設定をクリックすると、上にメニューが表示される。「画質」を選択すると、右の横欄が表示される。PCが許容する最高のもを優先。



いでしょう。

スチール写真としてみるなら絵はがきのように美しく見えるでしょう。

この貴重な素材を使って何か作品を考えてみませんか、「金閣寺の四季」「京都の神社仏閣」「京都の冬景色」の一コマ、みたいな作品の中に挿入すれば、この素材、立派に生きるでしょう。

3、～中紀をたずねて～ ぼちぼち行こら BD

岡本至弘

15分00秒

<作者コメント> 1988年(S63年)5月3～4日に実施された、OMC撮影会作品です。企画は前田茂夫さんで、ナレーターは浜田彰男さんです。コロナ禍の中、フィルム作品をリメイクしてみました。今から33年前のフィルム作品をテレシネしたものです。音声に雑音がでて聞き取りにくいかもしれません。

「ぼちぼち行こら」は、わかやま地方の方言で、焦らずゆっくり行こうという意味です。

<会長講評> 昭和63年のOMC撮影会作品なんて実に懐かしいフィルム時代の作品ですね。

フィルム時代は今のようなビデオと違って音は入りませんから、現地音やインタビューでも録音しようと思ったら、別にテープレコーダーを持っていく必要がありました。面倒だからどうしてもナレーションに頼ってしまいがち。この作品特に前半はナレーションの連続でした。又珍しくインタビューの場面がありましたが、声と口の動きが合っていません。今ではありえない話ですが、当時、合わないのが普通でした。

この作品、もりだくさんの内容を含んでおり、一泊二日の撮影会でかなりの強行スケジュールではなかったかと思います。ですが、どうしても題名「ぼちぼち行こら」という人が主役のような印象を受けるタイトルは、内容と合わない気がしますでしょうか。

大阪アマ連盟活動への提言

大阪ムービーサークルも年々会員の減少とコロナ禍で活動が制約されていますが大阪アマ連も同様です。

寝屋川映像教会・竹田幸男さんの提言

大阪アマ連の「懐かしの映像」開催の件

ネット配信で行うことは如何ですか。会場費やプログラム費用がかさんで、会場規模や参加者数の割に出品料が高いのが出品数の減少につながっていると思います。

ネット配信で費用を安くして、亡くなった人の作品なども出しやすくして多数の参加を求めているは如何でしょうか。

ネット技術講習会・ネットセミナー開催「ZOOM」等を使って技術講習会や技術セミナーを開いては如何でしょうか。質問や双方向の話し合いも可能です。

今は外出や集会が制約を受け、この状態はすぐには改善しないと思われ、このままでは活動が停滞してしまいます。インターネットをどんどん活用して、新しい活動に挑戦したいと思います。

他クラブ会報より抜粋

①映像神奈川会報(3月号)編集後記より

ZOOM例会も軌道に乗り作品を上映して感想を述べあうことに関しては、リアル例会に近い運営ができるようになりました。

例会後の懇親会を行えないのは大変残念なことです。世間でも多くの仕事がオンラインで出来るようになり、時間やコストが削減できるメリットにも気づき、仕事のやり方が変わりつつあります。その場合の大きな課題は、アフター5の懇親会に自粛が求められていることだと云われます。人間特有の文化的な生活は、社交から生まれるといえます。社会経験の浅い若い人たちが、オンラインに頼りすぎると私たちが生きる力を得てきた文化の力が損なわれる心配があると云われます。映像神奈川の文化を育む懇親会をオンラインで出来ないか

と考えました。例会後、場を変えるため再度「ZOOM」を立ち上げて、何でもありのくつろいだ雰囲気懇親会をしたかどうかと考えました。

その手順ですが、次のように考えます。

- 1) 例会終了から 20 分、各自飲物等を用意
- 2) 20 分後に開けるようにホストが ZOOM ミーティングを設営する。
- 3) 20 分後、参加希望者が再度 ZOOM に入り、参加者で雑談を始める。
- 4) 開始 40 分後に懇親会は終了とする。
- 5) 出入り自由、参加、不参加自由

以上、次回の例会から試してみます。

②東濃ビデオアイ会報（3，4月合併号）

「コロナ時代の映像表現」

自粛生活が続く中で家にこもってビデオを見ていると、コロナ禍中ならではの多彩な映像表現がなされてきました。例えば、NHK のど自慢は、大きな会場での収録が出来なくなり、出演者は自宅で歌っている動画を自分で撮影し、それを NHK が受けて放送しそれらを観て聴いて鐘を鳴らすという方法を取っています。

「ニュース番組」はスタジオに司会者がいて、ゲストコメンテーターはリモートで画像による出演をしています。

「動物園」では、担当飼育員でなければ見られない動物の生態の映像を自らが撮影し YouTube にアップしています。

少し前までは「ビデオレター」とかかって VHS や DVD 等の記録媒体を郵便で送って観てもらう方法でしたが、コロナ禍以降はオンラインでリアルタイムに映像を交換する方法が一気に進みました。「とよたビデオコンテスト」は YouTube を使って応募できるようになりました。とは言っても、やはり毎月の例会は顔を合わせてワイワイやった方が楽しいですね。ビールと同じように、生がおいしいなあ！間違いない。

③町田映像クラブ会報（2月号）より抜粋

・リモート勉強会

お正月と言うこともあり、出席者 13 名全員からビデオメッセージを含めてご挨拶を頂きました。参加されなかった会員の皆様についても鳥井会長から近況報告がありました。その様子は MEC2020 にアップされていますのでご覧下さい。

・上映作品(略)

・まな板の鯉コーナー

大塚さんの作品「旅の記録を整理しましょうー1」8分18秒を題材にして、コロナ禍のもとであっても楽しめるご提案をお聞きし、話し合いました。

・私のイチ押しコーナー

鳥井さんのイチ押し、関剛さんのポエム作品「紫緑起」8分00秒を題材として、独特な構成・カメラワークについて議論しました。

・秀作鑑賞コーナー

近藤潔作品「黄色い手帳」11分30秒

おばあちゃんの家を訪ねて一人旅をする少女、映像と音楽で紡ぐ旅情誌。

・リモート勉強会のお知らせ(略)

④寝屋川市映像協会の活動状況

寝屋川では、3月の総会をインターネットで行いました。メールで 会員に議案書を送り、期間を決めて質問を受け付け、期限を決めて賛否採決を行い総会を終えました。

例会は3月から毎月、集会はせずにネット例会です。会員から郵送、持参で集めた作品を YouTube に限定公開でアップ。感想意見はメールで返して貰い、無記名でメール公開しています。